

研究の経過と概要 【カリキュラムづくりと総合学習部会】

1 研究主題

豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成と実践

2 主題設定の理由

今、子どもたちの学力向上に対する期待が、学校内外から広く求められている。私たちは、「子どもたちに本当につけさせたい学力」とは何かをあらためて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることによって、これらの声に対する結果を出していかなければならない。

子どもたちに「ゆたかな学び」を保障していくために、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創り変えていく必要がある。すべての子どもたちに、学び合いの中で「学びの意欲」を喚起させる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々、目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究し続けていかなければならない。

本部会ではこれまでに、主にカリキュラム編成の工夫について、総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。部会員全員がそれぞれの実践を持ち寄って意見交換を行い、総合的な学習の時間における指導の工夫や可能性について討議を重ねてきた。新学習指導要領においては、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されているが、時間数が削減された総合的な学習の時間においては、各教科で学んだ知識や能力を活かすことによって、その成果を高めることが期待されている。そこで本部会においては、昨年度から総合的な学習の時間だけにこだわらずに他の教科での実践も視野に入れて、自主創造的なカリキュラムの工夫について研究を進め、検証結果を日常実践に還元していくことを目指してきている。

授業実践においては、多角的な視点を持って教材や単元を分析しながら、「どのように教えたらよいか。」「どういう授業を展開したら効果的か。」を模索していくことを基本とし、定められた指導計画によるものではなく、「教科書“で”教える。」という意識を大切にしながら、自主創造的な学習プランを策定して実践を進めていく。

そのために、次の3つの視点を重視して、成果の検証にあたる。

- (1) 授業（単元）における、「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。
- (2) 授業（単元）において、授業者が「自主編成した部分はどこか。」「工夫したところ

や作り直した点はどこか。」を明らかにする。

(3) 授業(単元)のふり返りや分析を丁寧に行い、成果と課題を明らかにする。

授業の分析においては、授業の様子を撮影した画像・映像の効果的な活用と、児童のノート・作品・感想記述等を、時間をかけて多角的に分析していくことによって、子どもの変容をみとり、成果と課題をあきらかにしたい。

本部会としては、すべての子どもたちの「学びたい」という意欲を引き出す工夫と、すべての子どもに「ゆたかな学び」を保障していくことによって、結果として子どもの学力向上につながるように、内容や方法を捉え直す努力を積み重ねていきたい。

3 研究の内容

- ・総合的な学習の時間や各教科に関わるカリキュラムづくり
- ・個人実践の交流
- ・授業実践と授業分析
- ・地域素材の教材化
- ・今日的な教育課題についての情報交換

4 研究計画

| 回 | 月 | 日 | 曜 | 研究の内容 | 会場 |
|----|----|----|---|------------------------|------|
| 1 | 5 | 7 | 水 | ・研究の方向性検討(研究テーマ・研究方法等) | 山北中 |
| 2 | 5 | 21 | 水 | ・研究計画検討 ・県教研提出レポート検討 | 奥野田小 |
| 3 | 6 | 4 | 水 | ・学習会(実践報告・日川小) | 日川小 |
| 4 | 8 | 4 | 月 | ・夏季学習会(実践報告・笛川中, 祝小) | 笛川中 |
| 5 | 8 | 29 | 金 | ・実践報告(勝沼小) ・授業案検討① | 奥野田小 |
| 6 | 10 | 1 | 水 | ・授業案検討② | 山北中 |
| 7 | 11 | 26 | 水 | ・研究授業 ・県教研の報告 | 大藤小 |
| 8 | 1 | 14 | 水 | ・授業分析 | 勝沼小 |
| 9 | 2 | 4 | 水 | ・授業分析 ・実践報告(加納岩小) | 加納岩小 |
| 10 | 2 | 18 | 水 | ・研究の中間のまとめ・次年度に向けて | 山北中 |

5 研究部員

原 喜雄 校長(加納岩小) 岡 利光 教頭(祝小)
小野紀男(大藤小) 古屋宏記(勝沼小) 小林誠治(笛川中)
山縣重人(奥野田小) 新海直仁(日川小)

第6学年総合「すあしタイム」の実践

奥野田小 山縣重人

1. 単元名 伝え合おう。奥野田地区の昔から今に伝わるもの

2. 単元について

子どもたちは、3年生からの総合的な学習の時間（本校ではその時間を「すあしタイム」としている。）で調べ学習や観察学習を行い、環境や地域、健康、平和といった学習に取り組み、本やパソコンを使って調べたり、まとめて発表したりといった学習に取り組んできた。3年生の「もも博士になろう」では奥野田地区の農業を学習するとともに小学校の敷地内にある桃の木を題材に栽培の仕方を地域の方に教えていただいたり、育っていく様子を観察したりしている。

昨年度は、5月から「お米を作ろう」でバケツ稲に取り組み、社会科で学習した稲作農家の仕事と照らし合わせながら作業をしたり、稲が育っていく様子を用紙にまとめたりなどの学習をしてきた。また2学期には「森林の働きを調べてみよう」に取り組み、調べたことを7、8人のグループで発表し合うという学習を行った。3学期には「職業について調べよう」を行い、まとめたことをコーナー化した発表場所で発表し合うことで共有した。

奥野田地区には熊野という地名のもとになっている熊野神社がある。子どもたちは遊びに行ったり、集合場所にしたりと放課後や土日の子どもたちの生活に近い存在である。しかし、熊野神社が他にもあることや武田信玄や勝頼とつながりがあることについて知っている子どもはいない。また、この神社で2年に一度行われる「やっこら」祭りについては、参加したり、見に行ったりしている子どもがほとんどであるが、これらがどのような謂われでどのように今に伝わってきたのかについても同様である。奥野田地区には、このほかにもいくつもの時代の遺跡発掘調査が行われるなど、そこで生活している子どもたちにぜひ知っておいてほしい歴史とのつながりがたくさんある。子どもたちがこういった地区の文化財や歴史にかかわる学習を行うことは、地区をより身近に感じるとともにより深い理解につながり、ますます好きになると考えている。

本単元では、初めに市の文化祭の絵で題材にした場所について発表し合う。その後、奥野田地区の文化財イラストマップを見たり、熊野神社を実際に見学したり、市の文化財担当の方のお話を聞いたりして、考えたこと、知っていること、興味を持ったことをまとめ、そこから調べてみたい課題を決定する。調べていく過程では、資料をさがしたり、知っている人に話を聞いたり、その場所に行って実際に見たりして探究する。毎時間最後に、「学習したこと」「次の時間までにしておくこと」「次の時間にすること」を書くことで活動に計画性を持たせるとともにそれを見合えるようにしておくことで課題ごとのつながりも意識させておきたい。まとめる過程では、活動を通して学んだことや分かったことを模造紙にまとめる。分かりやすく、見やすくなるようにあらかじめ紙のどこにどのようにまとめるかを考えられるようにしておく。発表する過程では、2グ

グループに分かれ、友だち下級生や地域の方々や保護者、お世話になった方にそれぞれのコーナーで発表を行う。多くの方々に学習の成果を聞いていただくことで子どもたちの気持ちを高めるとともに、子どもたち同士もよく聞き合い、理解を深めることができるようにしていきたい。

3. 児童の実態

男子11名女子23名計34名のクラスである。学習によく取り組み、いろいろなことに興味を持って活動できる。観察記録やメモなどもていねいに書き、それをもとに発表をすることができる。指名されたときには「はい」と返事をして答え、「○○さんと似ていて～です。」という話し方ができる子が多い。授業中に課題に対して答えや考えを発表したり、理由を考え話したりするときには、いつも7、8名の児童の挙手が中心となるが、3、4人ぐらいの小グループや班の話し合いでは、ほとんどの子がお互いに考えたことを話したり、答えや方法を確認めあったりすることができる。そのため、全体での挙手が多くなるように、授業では小グループの話し合いをし、発表する人を決めるという場面を設定している。

アンケート結果

1. あなたは、「すあしタイム」(総合)の学習が好きですか。○をつけ、わけも書いてください。

| | | | |
|-----|-----|-------------------------------|-------|
| すき | 32人 | 調べるのが好きだから | 楽だから |
| | | パソコンで調べるのが好きだから | |
| | | 知っていること以外のことが調べれば分かるから | |
| | | 先生に教えてもらう授業とは違う感じがするから | |
| | | 調べたり調べたことを模造紙に書いたりするのが楽しいから | |
| | | いろいろなことを知るから昔のことがパソコンで調べられるから | |
| きらい | 2人 | 発表がいやだから | 勉強だから |

2. あなたが好きな学習に○をつけてください。

| | | | |
|-----------------|-----|------------------|-----|
| () 調べることを決める学習 | 5人 | () 自分で調べる学習 | 17人 |
| () 友だちと調べる学習 | 20人 | () 調べたことをまとめる学習 | 8人 |
| () 発表する学習 | 1人 | () 友だちの発表を聞く学習 | 9人 |

3. 今までの「すあしタイム」で調べて発表したことでよかったことは何ですか。

自分の特技を知ってもらったこと

リサイクルについて

二分の一人式でいろいろなことを発表したこと

仕事について調べて発表した。 12

森林のことをくわしく調べた。 2

調べたことをもっと知りたいと思ったこと

しっかり調べて最後に発表できたこと

自分の作品を見てくれたこと

少しずつはずかしいのがなおった。

みんながちゃんと聞いてくれた。 6

ない 4 無回答 2

4. 奥野田地区のことで、今、調べて伝えてみたいことはありますか。

ある 13人

ない 11人

それはどんなことですか。

- ・やっこら祭り ・熊野神社 ・牛奥に昔からあるもの 牛池など
- ・奥野田地区は昔(すごく昔)、重川がすごく増水して洪水がおこったと社会でやった。それを調べたい。
- ・みそなめ地蔵 ・各地区に様々な神社があること
- ・奥野田地区に昔から伝わる人
- ・緑橋はいつ作られたのか ・城跡 ・いつから半そで短パンすあしなのか
- ・歴史 ・どんなものが古くからあるか。

5. 奥野田地区に古くからある物や伝わっているもの、地区の人物、地区名の由来など知っていることをできるだけ書いて下さい。

- ・やっこらさん ・雨宮けいじろうさん ・藤田しゅうさい ・みそなめじぞう
- ・奥野田の地名の由来 ・城ヶ坂橋 ・古くからある家 ・西広門田の由来

6. 調べたことを発表する時に気をつけていることは何ですか。

- ・ゆっくり読んで聞きやすいようにしている。
- ・声の大きさに気をつける ・かまないように言う ・敬語を使う
- ・分かりやすく話す ・みんなに聞こえる声で話す ・口を大きくあける
- ・ゆっくりていねいに話す ・前を向いて話す ・落ち着いて言う
- ・できるだけ顔を隠さない ・下を向かない

7. 知りたいことを調べるのにはどんな方法がありますか。

インターネット タブレット 本 図鑑 辞書 新聞記事 資料
人に聞く 見学 インタビュー

アンケートの結果から、児童に「すあしタイム」は好まれており、特に調べるのが好きということが分かった。今までは調べ学習に本やインターネットを多く使ってきたが、今回はそれに加えてインタビューや見学を取り入れ、いろいろな調べ方にふれさせたい。また、3年生の社会科で学習した地域のことを覚えている児童や熊野神社の「やっこら祭り」に参加し、関心を持っている児童が多いので、それらを切り口に課題設定をさせていきたいと考えている。

発表については、昨年度、本校で取り組んできた「発表名人」「聞き方名人」のことをよく覚えているので、簡単に確認してから取り組ませたい。

4. 単元の目標

| |
|---|
| 奥野田小「すあしタイム」で育てたい子ども |
| ○自ら考え，判断し，学習する子ども |
| ○共に学び，豊かな心を持つ子ども |
| ○思いや願い，自分の考えをあらわす子ども |
| 「すあしタイム」で育てたい力 |
| －自ら課題を見つけ，主体的に取り組む子どもの育成－ |
| ○自然や社会，人とふれあい，体験を生かして問題を発見し，教科で学んだことを生かしながら，自分なりに追究して行ける力 |
| ○活動を通して友だちの良さや自分の良さ，自分の生き方を考える力。 |
| ○問題解決的な追求をする中で，自分の思いを深め，生活に生かしたり，地域の人々に発信したりする力。 |
| (h25奥野田小の教育「総合的な学習の時間」全体計画より) |

奥野田地区に昔から伝わる文化財や遺跡などに興味を持って調べ表現し，子どもたちの身近なところに歴史とのつながりのあるものが多くあることに気づくとともに，地域への愛着を持ち，大切にしようとする態度を育てる。

5 子どもにつけさせたい力

【課題設定の力】

奥野田地区の文化財の資料を見たり，実際に見学したりして生じた疑問を課題として設定し，その解決を目指している。

【情報選択・価値判断の力】

課題解決に向けて必要な情報を集めたり，知っている方に教えてもらったりしながら考えている。

【活用する力】

自らが学んだことを分かりやすくまとめ，多くの人に伝えようとしている。

6. おもな学習活動

単元の展開（全20時間）

| | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|------------|---|--|
| 第一次 (5) | ・奥野田地区について，資料を見ながら関心を深める。 ・「やっこら」に参加した児童はその時のことを思い出す。 ・熊野神社を見学したり，奥野田地区についてのお話を詳しい方から聞いたりしながら課題を見つける。 | ・地区の文化財等に詳しい方との出会いの場を設定し，その方に奥野田地区で子どもたちが知っていることについて触れていただく。 |

| | | |
|---------------------|--|---|
| <p>第二次 (10)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・家の人に聞く。 ・インターネットや本，事典で調べたり，地域に詳しい方（ゲストティーチャー）に聞いたりして必要な情報を収集し，整理する。 ・実際に見学に行ったり，詳しい方に聞きに行ったりする。 ・由来や地域の人たちの思いを知る。 ・構想スケッチを使い，レイアウトを考えながら紙にまとめる。 ・発表原稿や難語句の説明カード，クイズを作るなど，ポスターセッションが上手に進むように工夫し，練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを用意し学習が計画的に進むようにする。 ・友だちと協同で課題を調べ，解決していくようにする。 ・インターネットだけでは解決できないことが分かるようにする。 ・分からないことをゲストティーチャーに聞くことができるようにする。 ・分かったことを発表できるように模造紙にまとめたり，発表原稿を作ったりさせる。 ・全員の仕上がりを確認する。 ・遅れてしまっている場合は個別に指導する。 ・書いている内容に間違いがないかよく確認する。 ・発表の練習をさせる |
| <p>第三次 (2)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを，友だちや下級生，地域の方たちに発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや下級生，地域の方に発表する場を設定する。 ・もっとも伝えたいことを写真や絵などを使って分かりやすく表現させる。 ・発表の内容と関連したクイズなどを用意するなど発表を工夫させる。 ・話し方（声の大きさ等）聞き方（話している人の方を向き，静かに聞く等）を確認する。 ・発表を聞いて分かったことを付箋にメモし，発表者に渡すことを確認する。 |
| <p>第四次 (2)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動をふり返り，よかったこと，分かったことをまとめる。職員室前の廊下に1週間交代で掲示する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動してきたことや考えたことを確かにするために，学習カードや付箋を見ながらふりかえらせる。 |

7. 自主編成におけるカリキュラムの工夫

- ・児童の身近な地域を題材にすることによって興味関心を持たせるとともに，児童自身

の経験や体験と結びつけるようにする。

- ・本やインターネットなどの資料をもとに調べるだけでなく、実際に見たり、詳しい方に聞いたりする調べ活動を行う。
- ・調べる過程で、「今日学習したこと」「次の時間までにしておくこと」「次の時間にすること」を書く学習カードを用いることで、調べ活動が計画的にできるようにする。またそれを毎時間掲示しておくことで課題ごとのつながりが意識できるようにする。
- ・コーナー化された発表では、まとめたことをそのまま読むのではなく、発表原稿を作るなどして、分かりやすく工夫して発表する。また発表の最後に内容と関連のあるものを用意するなどして発表を工夫させる。
- ・活動してきてよかったこと、分かったことをまとめ、振り返る時間を作る。

8. 本時の学習

1 日時 2013年11月27日(水) 13:50~14:35

2 場所 奥野田小学校 6年教室 図工室

3 本時の目標

学習計画をもとに、調べる活動やまとめる活動をし、学習の見通しを持つとともに、次の計画を立てる。

4 評価規準

前時に立てた学習計画をもとに、活動を行い、見通しを持って次の活動の計画を立てることができる。

5 展開

| | 児童の活動 | 教師の働きかけ | 評価 |
|----------|---|---|-------------------------|
| 導入 5 | 1. 前時の学習カードを見直し、今日の学習を確認する。 2. 本時のねらいを確認する。 「今日学習すること」に沿って、調べる活動やまとめる活動を進めよう。 | ○目的意識を持って意欲的に取り組めるように活動を明確化する。 | |
| 展開 30 | 3. 必要なものを用意して活動する。 ・調べたことをまとめる。 ・模造紙にまとめるための構想スケッチを書く。 ・発表の最後に行う内容と関連のあるものを何にするかを考える。 ・できあがった構想スケッチをも | ○それぞれの活動がうまく進むようにアドバイスをする。 ・意味が分からない言葉できるだけ調べようにさせる。 ・解決できないことが出てきたらそれが何かはっ | ○さまざまな情報を手がかりに学ぶことができる。 |

| | | | |
|-------------------|---|----------|-------------------------------|
| ま と め 10 | とに模造紙に書く。 ・模造紙に書き始めるところは、 図工室で行う。 4. 学習カードに「今日学習したこと」 「次の時間までにしておくこと」 「次の時間にすること」を書く。 5. 次時の予告 いくつか発表する。 | きりさせておく。 | ○今日の学習の成果をもとに次回の計画を立てることができる。 |
|-------------------|---|----------|-------------------------------|

参考

塩山史誌 ふるさと塩山 わたしたちの甲州市

ある〜くこうしゅうガイドブック

桃源郷に囲まれた文化財イラストマップ

—奥野田地区—

甲州市ガイドブック塩山編 角川地名大辞典など

9. 研究会（11月27日）議事録より

（1）授業者とメンターによるリフレクション

メンター：「山縣先生が、日常の授業において心がけていることは？」

授業者：一つは、『学習ノート』を有効に活用している。特に、国語・理科・算数・社会科の学習では、最初に（今日は何を学習するか）学習のめあてを書き、1時間の学習（指導）の流れを1ページ内に記入している。もう一つは、小グループによる話し合い活動を意識的に取り入れて、発表を活性化させるように心がけている。

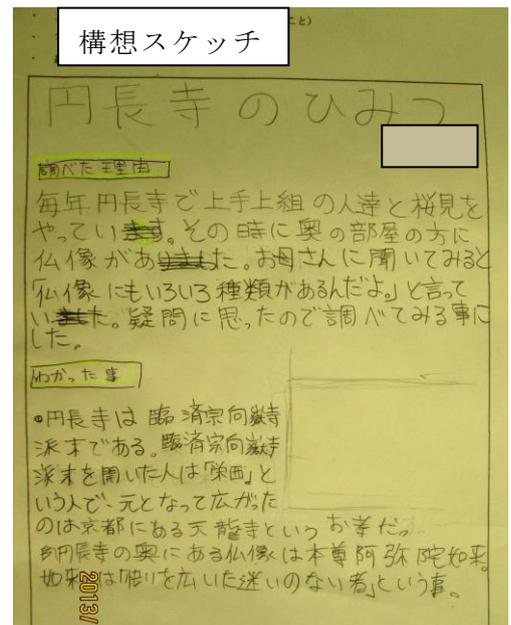
メ：「本単元の学習のねらい」

授：本地区には有名な産業が少ないことから、まず、教師自身が地域について知ろうと、積極的に教材研究を行った。市役所の生涯学習課、近隣の寺院などを訪ねて、児童の調べ学習につながる学習内容の整理を行った。授業者としては、自分の地区についての知識を持ち、地区に愛着を持ってほしいと願う。

メ：「本時に関わって、前時までにおいて気をつけた点、工夫した点」

授：調べる対象や場所・題材を決める際に、子どもの主体的な選択のチャンス（時間）を与えたので、ある程度の時間を要した。また、言葉の意味を調べることにも時間がかかった。工夫したことは、学習カード。本時の学習をふり返って、①今日はどんなことを学習したか、②次の時間までにやっておくことは何か、を記入させ、見通しを持って次の学習へつなげられるように配慮した。

メ：「今日の授業で、子どもたちの様子はどうだったか。」



授：学習の目的，めあてをきちんと持っているか否かによって，個人差が大きかった。実際に調べ学習に行ったり，ていねいに厚く調べたりした子どもと，目的が明確でない子どもの意識の差が出ていた。本時の中でスケッチ作業に入れなかったグループが3つあったことは課題が残った。

メ：「今日の授業での反省点，修正点は。」

授：全体的には動いていたが，一部，活動が停滞していたグループがあった。他の友達が何をやっているかを見ながら学習を進めることを意識させたかった。また，カードの使い方に課題が残った。奥野田地区は，水害の歴史，指導者としては「水害」を選択する児童がいてほしかった。

(2) 研究討議

①事前アンケート結果から

○児童の多くが，「調べることが好き」であること。

○発表することに関して，「以前は苦手だったが，少しずつはずかしいのが治ってきた。」という児童がいる。

○3年生の社会科，地区探検の学習から，地区内のことをよく知っている。

「奥野田」の由来を知っている児童が，6～7名いた。

②本時の前半において，教師が指導したポイント

○学習の共有化を図ろう。自分一人ではなく，周囲を見ながら学習を進めよう。

○今日の活動では，模造紙を仕上げるのが目標ではなく，発表に向けて準備を確実に進めることが大切だ。

○取材先には，事前に連絡を入れてあるので，今日にでも取材が可能である。積極的に取材に行こう。

③【質疑応答】

A：一人で黙々と，すごく一生懸命に取り組んでいた児童たちがいた。

授：めあてや目標の明確さによると思う。彼らは，調べる対象が自分の家の近所であるといった理由等から，学習のめあてが明らかになっていたので，思い入れを持って，主体的に学習活動に取り組むことができていた。

指導助言：

本時のような，児童の作業場面を研究授業として見ることができたことが収穫である。発表会の場面ではなく，児童らが悩みながら動いている授業だったことに価値がある。発表会に至るまでの経過の段階を検証することは，我々教師にとっても新鮮味があり，特に総合的な学習の時間は，この積み重ねが大切である。

B：成果物（模造紙）を，見る人読む人にとって見やすい工夫を考えながら，均等割り付けなどを取り入れて作業している児童が目についた。他者意識を持って，学習のまとめを作ろうとしていた。

授：事前に指導したのは，「発表を意識して，



模造紙1枚に収める」というイメージである。

C：となりの教室では、児童相互の学び合いが見られた。

Etc.「書き方を、常体にするか敬体にするか」黙々と作業しているようだったが、お互いに関わり合いながら学習を進めていた。

D：学習の手順が、明らかにされていた。

①今日、やること、②次までにやっておくこと、③次にやること、の順にステップをふんでいる。指導者の緻密な指導、児童の活動を支える支援に配慮がうかがえる

E：調べることに価値を見出している児童の姿が目についた。

F：3年生時に体験した社会科見学が、児童の中に生きていることがわかった。

子どもが、よく自分の地域をよく知っている。こだわりを持っている。「自分は、これを調べたい。」課題を明確に持っていることが、意欲的な学習活動に結びついている。また、カードが工夫されていることによって、自分が何をしたらよいかわかっているから、意欲を持って学習に臨めると感じた。

G：教師の教材研究の大切さを再認識した。

指導助言：

教師が「どう子どもと関わっていくか」という、関わり方に目を向けたい。今回のような場合、「支援的な関わり」が有効となる。「求めている児童に対して、何を言うか。」「求めていない児童、困った児童には、どういった投げかけをすべきか。」が大切である。

本時においては、〇〇しなさい～といったマネジメントの言葉ではなく、与えるタイミングを捉えて、的確に具体的な指示を出している。最初から指導を入れたのではなく、しばらく自分たちで活動させてから、広辞苑を出して、具体的な支援をした。「調べろ！」ではなく、ほのめかすような活動に対して適切なアドバイスがなされていた。内容に関わっての支援の言葉だから、与えられた児童も気分がいい。次の活動意欲につながっている。子どもの活動のペースに差があっても当然で、周囲を見ながら自分の活動に生かすという、相乗効果が生まれてきている。

本時の内容は、1単位時間設定ではもったいなかった。児童にとっても、ものたりなかった（もっとやりたかった）のではないかな。

(3) 教師の支援としてよかった点

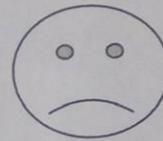
- ・綿密な教材研究
- ・学習カードの工夫
- ・支援的な関わり方、言葉の投げかけ
- ・授業のデザイン。教師自身の考えで、授業を作りかえていくという発想によって、「習得、活用、探究」という学習サイクルにもとづいた授業づくり

テーマ (牛 巢 ハ 石)

☆ 今日学習した

こと

まとめた



☆ 次の時間までにしておくこと

必ず写真印さつ!!
話を古屋さんにまく
し

☆ 次の時間にすること

まとめる

伝え合おう 奥野田地区の昔から今に伝わるもの no8

氏名 ([redacted])

テーマ (牛奥 八石)

☆ 今日学習したこと

まとめて、ポスターの構想を考えた。



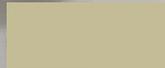
☆ 次の時間までにしておくこと

写真をとりに行く
(近くのお寺の人に話をきく)

☆ 次の時間にすること

まとめて、もろくに書く

氏名



テーマ (奥ハ石)

☆ 今日学習したこと

もろう紙にまとめる



☆ 次の時間までにしておくこと

写真を印刷してくる

☆ 次の時間にすること

写真を工夫してはる
もろうしにまとめる。